

2026年8月研修 成果報告会

2026年10月3日

飯舘 A班

サンプリング

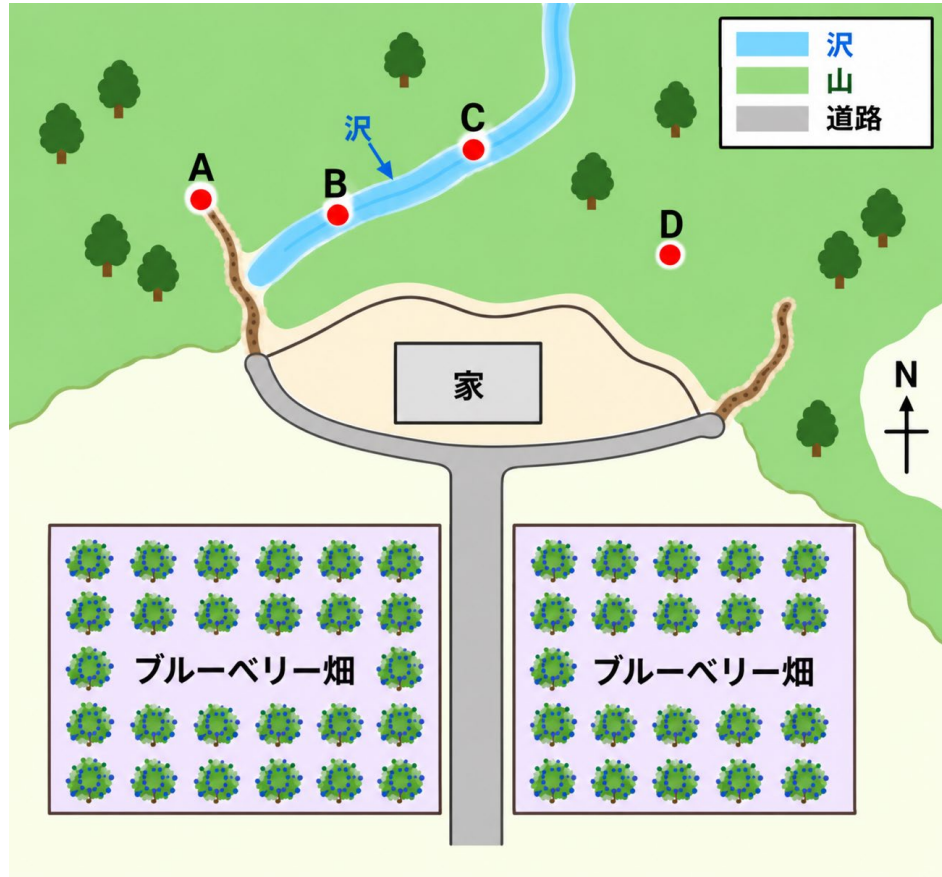
Sampling

1. 沢

2. 沢じゃないところ

の 2箇所 でライナーを採取

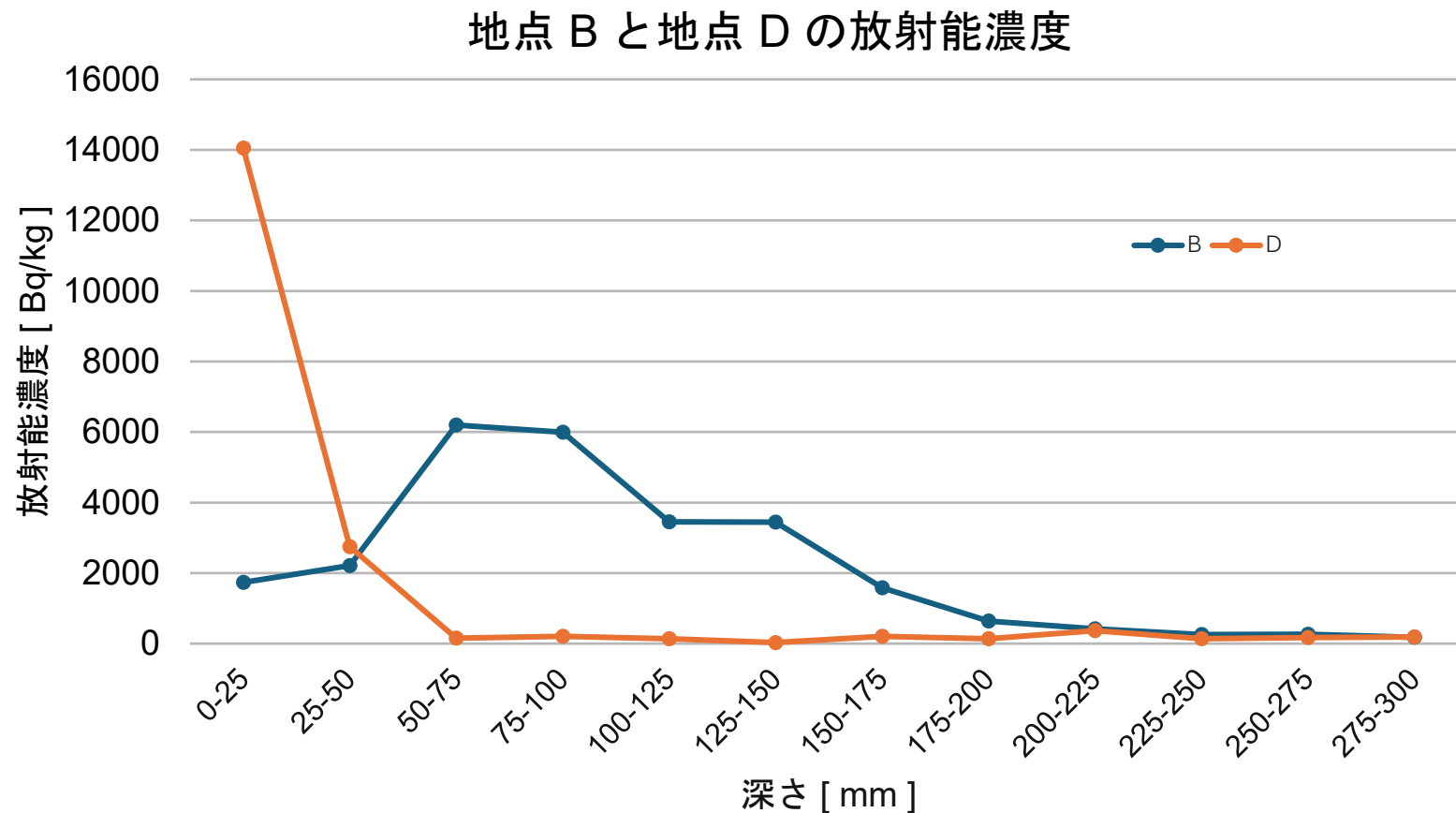
採取計画



沢水の影響による土壌中放射能濃度の変化を調査

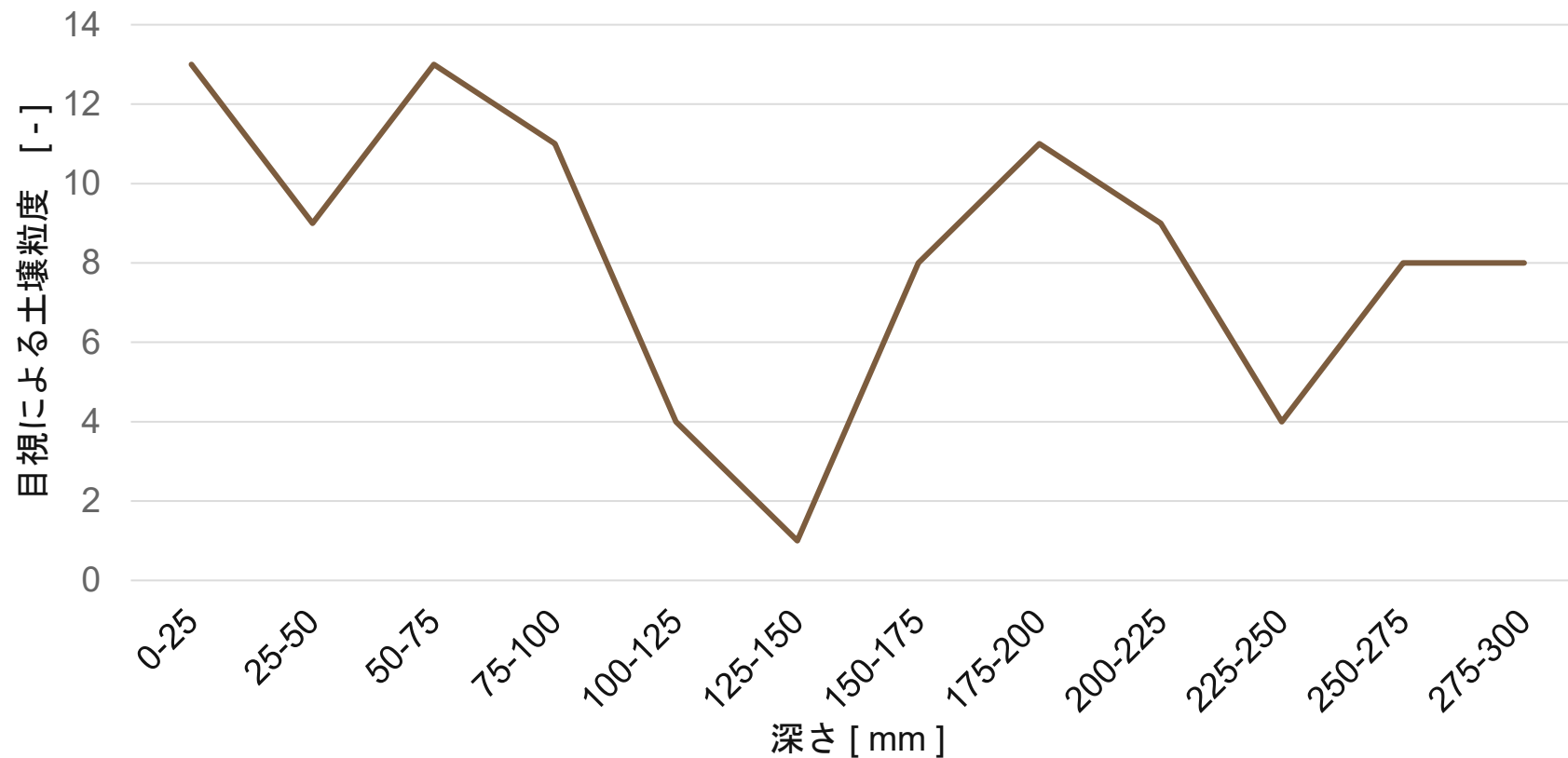
A～D：表層 0–5 cm 土壌

B・D：ライナー土壌も採取



沢水のない地点 D では、深くなるにつれて放射能濃度が低下した
一方、沢水のある地点 B では、地点 D と比べて全体的に高い放射能濃度を示した
また、地点 B では、地表付近の濃度は低く、50-75 cm で最大となった後、深くなるにつれて低下した
→ 表層では、流水によって放射性物質が流出・移動した可能性

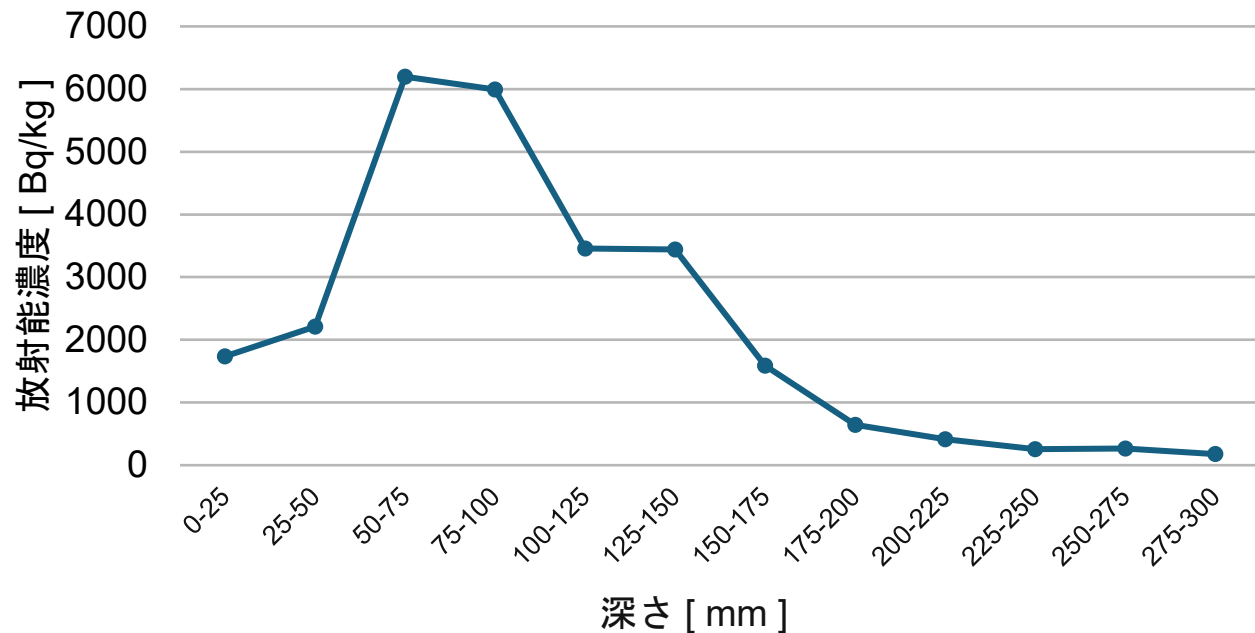
地点 B における深さと土壌粒度の関係



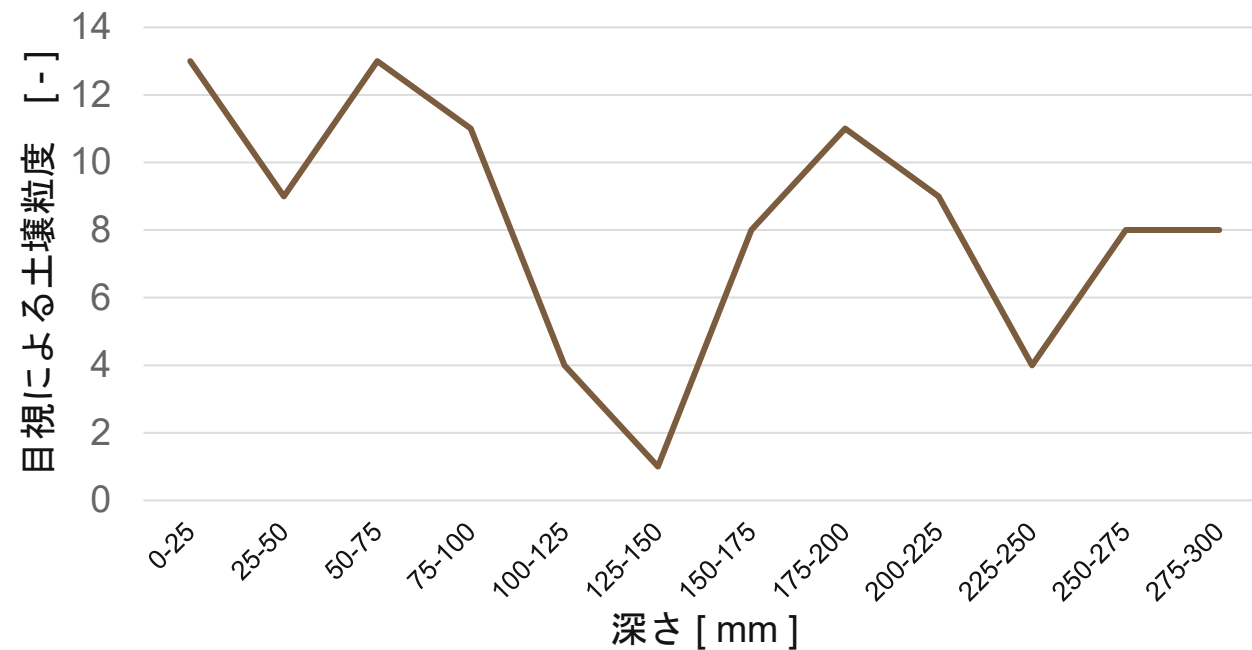
採取した土壌の粒度を目視により15段階に分類した
評価値が大きいほど、粒度が細かいことを示す

測定結果・考察

地点 B における深さと放射能濃度



地点 B における深さと土壌粒度の関係



粒度が細くなる層では放射能濃度が高くなり、粒度が粗くなる層では放射能濃度が低下するなど
両者の深さ方向の変化には類似した傾向がみられた

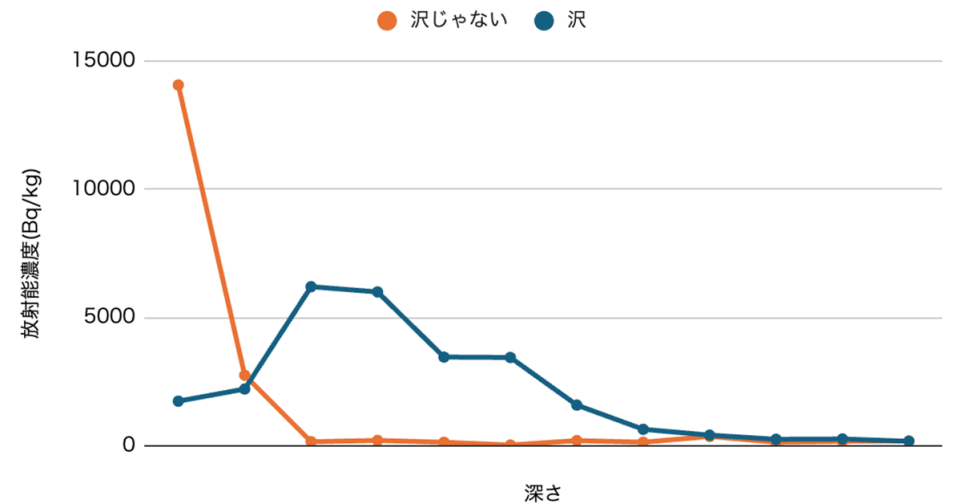
粒度の細かい土壌は水分を保持しやすく、粒子の比表面積が大きい
→放射性物質を吸着・保持されやすかった可能性

測定

Measurement

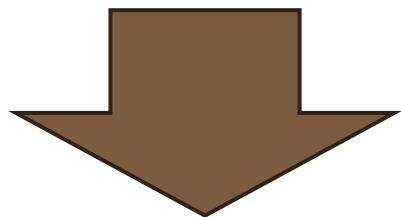
- ・ 2本のライナーを夜中まで計測
- ・ 沢と沢じゃないところでグラフを作成

沢ではない場所と 沢の放射能濃度



測定以外には…

- 中間貯蔵施設・手つかずのまま残る遺構の見学
- 福島第一原発の見学（質疑応答も）
- 畜産農家、村の方との交流
- 飯舘村内の散策



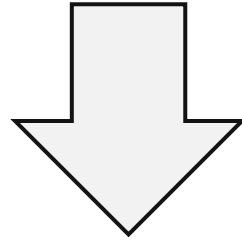
感情も含めた実体験を双方向のコミュニケーションで知る
福島を過去と現在をリアリティをもって実感
自分ごととして捉えるように

対話の素材に



振り返りから生まれた問い

研修期間を通じた個々の気づきを共有 ・ 特に「1Fの安全と基準」に話題が集中



○中心となった問い

「安全や基準」を、どうすれば人々の「納得と信頼」につなげられるか？

問いを通した理解の深化

①

一つの事象への集中

同じ1Fの基準という
テーマに向き合い、
じっくりと言葉を交
わした

②

多様な意見との遭遇

自分とは異なる捉え
方や疑問点に触れ、
視野が大きく拡張し
た

③

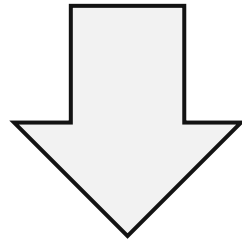
思考のアップデート

他者の視点が混ざり
合うことで、問いに
対する理解が一段と
深まった

○小結論

「信頼を生み出すには対話の積み重ねが大切」

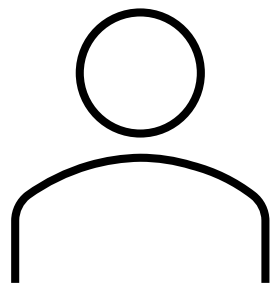
- 正しい基準値を示すだけでは不十分
- 言葉を交わし、互いの認識を確かめ合う「対話」こそが納得の根幹



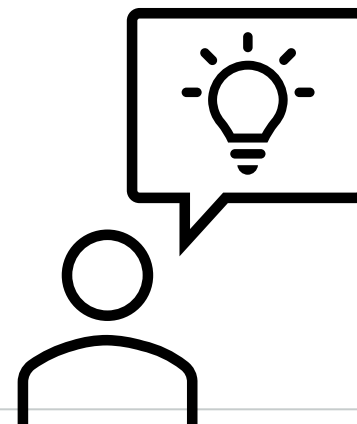
○新たな問い

よりよい「対話」をするために、私たちに必要な要素とは何か？

よりよい対話をするために



無関心



興味を持つ

各々が意見を持つようになるには

- ・ 情報

- ・ テレビ、新聞
- ・ SNS



- ・ 対話の機会をつくること

- ・ 教育
- ・ 研修

一人ひとりが**対話を通じて考える**→社会的課題の解決につながる